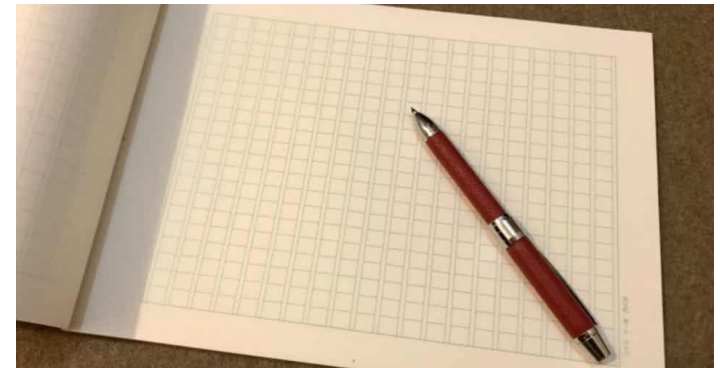


作文の書き方



作文を書く際には、次の2つの力が必要です。

- ①内容
- ②表現



- ① 内容は「まさに『**（テーマ）について書き、**という自分の考え（願いや思い）』を伝えること」です。
つまり、「なぜ」、「何を」伝えるかです。
- ② 作文について、表現とは「書いて伝える方法」のことです。
つまり、「どのように」「どう」伝えるかです。

①内容

「書きたいことがないから書けない」というのでは、コミュニケーションはなりたちません。書きたいという思いを抱くため、テーマについてよく調べ、自分の知識や体験を掘り下げなくてははいけません。



読書・実体験やテレビ、新聞・ネットや聞いた情報

得た事実をもとに考える



- ・ 環境問題にはどんな種類があるか。
- ・ 何が問題とされているか。それは自分とどう関係しているか。
- ・ それを受けて、自分が何を考えたか。どんな思いや願いを伝えるか。



②表現



書くための材料（テーマに関係する事実やそれに対する自分の考え）がそろったら、次はそれを相手に伝える準備をしましょう。

構成を考えよう



はじめ（書き出し）→なか（説明）→おわり（自分の考え）



はじめ＝書き始めの意味段落です。

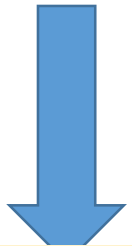
なか＝作文のテーマに関する情報（事実や体験）を説明する意味段落です。

おわり＝自分の考え（テーマに関する自分の思いや願い）を伝える意味段落です。

「はじめ」の段落を書く

「表現」の方法で、書くための手順（構成）について考えましょう。ここでは、ただ考えもなしに書き続けるのではなく、計画的に書き進めていくことが大切です。

構成を考えよう



はじめ＝書き始めの意味段落

なか＝作文のテーマに関する情報（事実や体験）を説明する意味段落

おわり＝自分の考え（テーマに関する自分の思いや願い）を伝える意味段落

「はじめ」の段落に書く内容

◆何のために「どう」書き始めるかを工夫しましょう。

※読む人には、読む必要性、作文を書く人は伝える必要性をもたせる重要な意味段落です。テーマにふれ、課題を投げかけるなどの工夫が必要です。

（工夫）会話文を使う、興味を引く情報を提供するなど。

「はじめ」の段落を書く

「はじめ」の段落に書く内容

◆何のために「どう」書き始めるかを工夫しましょう。

※読む人には、読む必要性、作文を書く人は伝える必要性をもたせる重要な意味段落です。

テーマにふれ、課題を投げかける

(工夫) 会話文を使う、興味を引く情報を提供するなど。

目を閉じて想像して欲しい。あなたは日本人で大人だと仮定しよう。家から一歩外に出ると、あなたは不安で落ち着かず、自信がなくなる。街を歩くと、目に入る看板や案内の文字が分からず、あれは何を意味しているのだろうと考える。そしてそんなことも分からない自分はクズだと思う。バスに乗っても、運賃」という漢字や行先を告げる文字が読めず、乗るのが怖くなる。自分はいつも不確かで分からないものに囲まれた世界で生きているとを感じる。あなたは、なぜこんなに困っているのだろうか。

(全国中学校人権作文コンテスト内閣総理大臣賞「学ぶことは生きること」岡山県岡山県立岡山操山中学校2年小西珠生さん(こにしたまき)の作文より引用)

「この学校はいじめのない良い学校です。」ある先生が言った言葉。あなたには、どう聞えますか。この言葉、私にとっては信じがたいものでした。いじめ。この言葉はすぐ曖昧です。私は中学二年のとき、何人かの女子から悪口を聞かえるように言われたり、嫌がらせを受けたりしていました。とても辛かったです。でも、いじめだと思ったことはありませんでした。いじめて、不登校とか自殺とかにまで人を追い込んでしまうもの。私が受けているのは軽い嫌がらせ。いじめはもっとひどいものだ。そう考えていたからです。休んだら女子たちに負けたことになる、思うつぼだ、そう思って、歯をくいしばり毎日学校に行き続けました。ただただ耐えて、涙をこらえて過ごしていました。(全国中学校人権作文コンテスト法務事務次官賞「『良い学校』って?」岐阜県恵那市立恵那北中学校3年 瀬瀬 ほか(こうけつほのか)さんの作文より引用)

「なか」の段落を書く

「なか」の段落に書く内容

◆作文で触れたいテーマについてどんな体験（起こった事実、エピソード）について説明する。伝えたい思いや考えを伝える方法として体験談を語る必要があります！

※作文の内容面に関して「なか」は重要です。生々しい自分の実体験こそが説得力のあるよい作文です。
(工夫) 会話文や専門用語の言い換え、接続語や指示語を上手に使うなど、場面や出来事が読み手に分かるように表現することが大切になります。

辛い状況が少しでも良くなればと、母や担任の先生にも相談しました。私は先生に「辛い状況は変わってほしいけれど、みんなには言わないでほしい。」と話しました。でも私の気持ちをみんなに伝えるのは嫌だ、そんな気持ちの葛藤の末の言葉でした。話した数日後の、道徳の授業。先生が配ったプリントには、自殺した生徒たちの遺書がいくつか載っていました。読んでみて衝撃を受けました。「私とされていること一緒にや！」そうです。遺書には、「聞こえるように言ってくる悪口に耐えられないういなど、私と同じようなことをされて亡くなっていく子がいたのです。私のされていることもいじめなのか、初めてそう思いました。また、何年か前にいじめられていて、今は何もなければ、突然記憶がよみがえってきて発作のようになり、屋上から飛び降りて亡くなってしまう。」という子もいました。耐えれば良い、いつかは変わる、私はそう思っていたからこそすごく怖くなりました。そして気づきました。状況が変わればすべて終わるわけではないのだと。

（全国中学校人権作文コンテスト法務事務次官賞「『良い学校』って？」岐阜県恵那市立恵那北中学校3年 瀬瀬 ほんか（こうけつ ほのか）さんの作文より引用）

「おわり」の段落を書く

「おわり」の段落に書く内容

◆「なか」の段落で語った体験から伝えたい思いや願いは何かを伝えるのが「おわり」の意味段落です。

※「なか」と「おわり」の内容が結びついていることが重要です。

Q 次の2つではどちらがいじめはいけないという思いが伝わりやすいか。

A いじめをして母親に叱られた（なか）→だからいじめはいけない（おわり）＝×

A いじめを受けてこの世が嫌になった（なか）→自分や相手の命は尊い。だからいじめはいけない。＝○

「あの体験」
（※「なか」の段落）



学んだこと＝書き手の意見
（※「おわり」の段落）

『良い学校』って？
やっぱり、「いじめのない学校」とはつきり言えるところでしようか。いや私は、一人ひとりの気持ちを尊重し、いじめをなくそうと努力している学校だと思っています。なぜなら、「いじめられ続けている」そう感じた時点でいじめと言えるから。周りの人が勝手に決められるものではないから。苦しんでいる子がいるのに、人の気持ちを知らずして、「いじめがない」と言うのは信じられません。
私は今、辛い思いをせず、楽しい学校生活を送ることができています。理由はわからないけれど、悪口や嫌がらせがぐんと減りました。すごく辛かった、でもあの経験に学ぶことは多くありました。いじめを全てなくすことは不可能に近いと思いますが、だからこそ、いじめを「なく、い」ことにしてしまおうのではなく、しっかりと向き合って、なくす努力をするべきです。（全国中学校人権作文コンテスト法務事務次官賞「『良い学校』って？」岐阜県恵那市立恵那北中学校3年 瀬瀬 ほんのか（こうけつほのか）さんの作文より引用）

作文の書き方（まとめ）

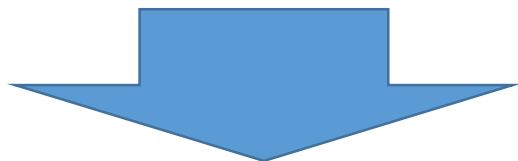


- テーマについて
- ①結論（伝えたい思いや考え）をあげる。 （おわり）
 - ②そのための材料（体験や事実）を整理する。 （なか）
 - ③書き出しをどう工夫するかを考える。 （はじめ）

□よい作文とは・・・※小論文の場合は「おわり」につながる「なか」の内容の説得力が大切となります。

★その1 具体的であればあるほど良い。つまり、読み手に情景が浮かびイメージがわきやすいことです。

「私は中学校で部活動をしていました。練習の間、しっかり挨拶をしました。」



「私は中学校に入学して、野球部に入部しました。初日はグラウンドの横で先輩たちの練習を見学したのですが、練習が終わるとき、先輩たち全員が、「ありがとうございました。」とグラウンドに頭を下げて礼をするのを見て、大変驚きました。」

★その2 体験（なか）が意見（おわり）にうまくつながっている。

★その3 書き出し（はじめ）の段落で読む人が興味や関心を高まるような工夫がある。☆読んでみたい！

学ぶ＝まねぶ＝まねる



- テーマについて
- ①結論（伝えたい思いや考え）をあげる。（おわり）
 - ②そのための材料（体験や事実）を整理する。（なか）
 - ③書き出しをどう工夫するかを考える。（はじめ）

入賞する作文には、良さがあります。上記①～③のどこにどんな工夫があるのかを見出し、自分の作文に生かしましょう。作文の書き方を身に付けても、何より大切なのは内容です。

伝えたい思いやその材料がなければ形だけの文章になり、読む人に感動は与えられません。

- 3年生へ 誰もが納得する説得力のある文章を書こう！
新聞やテレビ、読書を通して「何が、なぜ問題になっているのか」「詳しい、本当の情報は何か」「それに対して自分はどういう意見か。」を常に考える習慣を身に付けてほしい。
- 2年生へ 思いがしっかり伝わる文章を書こう！
作文の書き方を理解すること（原稿用紙の使い方など）。また、手本となる入賞作文の良さに学ぼう。行事の多い2年生は体験を作文にするチャンスです。
- 1年生へ 正しい文章表現を身に付けよう！
作文の書き方の基礎を身に付け、体験をもとに考える習慣を身に付けましょう。特にあゆみを書くこともその一つです。